

子ノ口～休屋間 遊覧船再開の所感は

かつてのにぎわいを 期待したい



野月 忠見
(柘の会)

議員 十和田湖観光は東日本大震災以降、風評被害などで観光客が激減し、遊覧船を運航する会社の破綻もあったが、八月には十和田湖遊覧船企業組合が設立され、子ノ口～休屋間の運行が再開され、うれしく思っている。この件について市長の率直な感想を聞きたい。



再開された子ノ口～休屋航路

市長 遊覧船は十和田湖観光の重要な要素であり、特に湖上から見る十和田湖の紅葉は多くの観光客を魅了しています。八月から子ノ口～休屋間の定期航路の運航が再開した

ことにより、奥入瀬溪流から子ノ口、そして休屋へと連続した人の流れが復活しました。子ノ口に活気が戻ってきたことは十和田湖観光全体に大きなプラスになると歓迎しています。これを契機に以前のようになにげわいが戻ることを期待しています。

議員 現在休屋では二つの会社がそれぞれの場所乗船券を販売している。

議員 現在休屋では二つの会社がそれぞれの場所乗船券を販売している。

る。観光客の利便性を考え、一カ所で販売できないか。

観光商工部長 運行会社によって販売場所が違うということでも戸惑う方がいるということは聞いています。

議員 八月二十二日の豪雨で発生した土砂崩れのため、奥入瀬溪流が通行

のどめとなり、多くの観光客に影響があったと聞いている。この道路は生活道路でもあり、観光と生活の両面で重要な路線である。先の土砂崩れの発生状況は。

総務部長 上北地域県民局地域整備部から確認したところ、土砂流入が四カ所、土砂崩れが三方所、のり面崩落が一カ所の計八カ所であり、その被災規模は総延長で四八〇メートルです。この土砂災害により、国道二〇二号が二十二日午後十時四十五分から二十四日午後三時まで通行どめとなりました。



小村 初彦
(公明党)

地域活性化や若者定住促進の対策を

先進地域の取り組みを参考に 今後研究していきたい

議員 地域活性化と若者の定住促進のため、総務省で推進している地域おこし協力隊事業を導入する考えはないか。

市長 当市でも過疎地域における生活機能の低下や交通手段の不足などは大きな問題となっており、今後さらなる高齢化の進展により一層深刻化するおそれがあります。このことから、今後当市における過疎地域の課題を把握するとともに先進地域での取り組み事例を参考にしながら、地域おこし協力隊を含めて過疎地域対策を研究したいと考えています。

議員 モデル地区を設けて取り組む考えはないか。

企画財政部長 地域おこし協力隊を導入する際は、受け入れ前に地域と十分

に話し合い、地域の問題や課題、ニーズ等を把握した上で目的意識を持つて取り組む必要があることから、全国や県内の導入事例、活動状況や成果などの情報を集め、当市に適した方法を研究したいと考えています。

議員 来年B-1グラウンドが当市で開催されるが、波及効果・経済効果を高めるため、物産展コーナーを設ける考えはないか。

観光商工部長 昨年の北海道東北大会でも物産展を同時開催し、好評だったことから、来年開催の全国大会でも併催行事として物産展や観光PRコーナーの設置を考えており、今後実行委員会で検討したいと考えています。



魅力たっぷりのとわだ産品